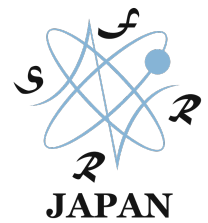


SFRR Japan NEWSLETTER

January 1, 2024



Top News

2024年 辰年



年頭のご挨拶

理事長 内藤 裕二

(京都府立医科大学学生免疫栄養学講座)



2024年明けましておめでとうございます。

2024年1月1日に発生した能登半島地震の被災者の皆様方におかれましては心よりお見舞いを申し上げます。また、現地で医療活動にあたっている関係者の皆様方を応援するとともに安全をお祈りいたします。

お世話になっている日本酸化ストレス学会の皆様にとって、2024年が幸多き年であり、酸化ストレス研究の分野において更なる発展と成果が得られることを心より願っております。新しい年が始まるにあたり、私は大変光栄に思い、理事長として学会の発展に寄与できることに感謝しております。今年も我々の使命である酸化ストレス研究の発展に向けて、共に努力し、成果を上げていく所存であります。

今年度の目標は、まずは若手研究者の育成に関しては、学会としてのサポートを一層強化していきます。新たな才能の発掘や若手研究者のアイデアに耳を傾け、研究の土壌を育てることが、未来への投資となるでしょう。若手の皆さんには、安心して新しいアプローチや革新的なアイデアを提案していただき、学会全体がそれを支える体制を整えていきたいと考えています。国際交流においても、世界の酸化ストレス研究の最先端を追求し、国際的な共同研究や交流プログラムを推進してまいります。異なる文化やバックグラウンドを持つ研究者との交流は、新しいアイデアや視点をもたらし、学会のグローバルな展望を広げる一翼を担うことでしょう。今年はSFRR Asia総会を10月に北京で開催する予定であります。また、学会誌JCBNについても、高品質かつ多様な研究成果を広く発信できるよう取り組んでいきます。優れた論文や研究ハイライトの取載に努め、学会員の皆様にとって価値ある情報源となるような学会誌を維持・向上させていくことが我々の責務です。今年も皆様方のご協力とご支援を賜りながら、学会を一層発展させていく所存です。皆様と共に、酸化ストレス研究の未来を切り拓いていく喜びを分かち合えることを楽しみにしております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



◇ 2024年-2025年新役員候補が選出されました ◇

次回代議員総会(2024年5月開催:神奈川予定)を持って、現在の役員(理事・監事)・代議員全員が任期満了を迎え、先の選挙で選出された役員・代議員にて、新体制となります。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

理 事: 27名 代議員: 85名

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★



いづれも立候補者数が定款で定める定数を超えませんでしたので、投票は行わず、資格を満たした立候補者が当選者となりました。任期は、2024年度代議員総会終了後(5月17日もしくは18日開催予定)から2026年度代議員総会終了までとなります。



◇◇◇ 年次学術集会準備報告 ◇◇◇

第77回日本酸化ストレス学会学術集会



会 期: 2024年5月17日(金)~19日(日)
会 場: 神奈川歯科大学(横須賀市稲岡町82)
会 長: 李 昌一(神奈川歯科大学 社会歯科学系
社会歯科学講座災害歯科学分野 教授)

今年5月17-19日に第77回学術集会を日本NO学会との合同で「第77回日本酸化ストレス学会/第23回日本NO学会合同学術集会」を開催致します。テーマは「人生100年時代を生きる ~健康長寿酸化ストレス研究の今と未来~ NO研究の波及～」として、日本だけではなく、グローバルにおいても迎える人生100年時代の生物医学研究の鍵となる酸化ストレス、NO研究を今一度、私の酸化ストレス研究活動の原点の地でもあった横須賀で、社会的に発信する学術大会にできればと考えております。これから酸化ストレス、NO研究を始めようとする先生方、次世代の生物医学研究者、企業の先生方の育成と認知していただけるような教育プログラムと産学連携に力を入れた学術集会となるよう「若手のための合同教育講演」を目玉とし、実際の学会会員を中心とした研究者が関わる産学連携シンポジウムなどを従来のプログラムに加えて企画しております。会が盛会となりますよう是非とも会員の皆様方のご参加をお願いしますと共に、関係各位のご支援を心よりお願い申し上げます。

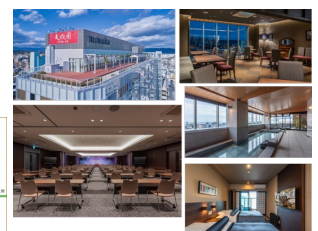


第78回日本酸化ストレス学会学術集会



会 期: 2025年5月22日(木)~23日(金)
会 場: ミナカ小田原コンベンションホール・
ホテル天成園 小田原駅別館
<https://www.minaka-odawara.jp/>
会 長: 鈴木 秀和(東海大学医学部医学科内科学系
消化器内科学・教授)

令和5年6月号のニューズレターにて第78回日本酸化ストレス学会学術集会開催のご案内を差し上げましたが、再度、会期と会場に関する情報をお届けいたします。本会は、第50回日本微小循環学会総会(5月22日(木)~24日(土))と合同開催となり、小田原駅直結のミナカ小田原コンベンションホール・ホテル天成園小田原駅別館で開催させていただきます。多くの皆様方にご参加いただけますよう鋭意準備を進めさせていただきます。



引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。

～ 2023年度 各賞受賞者 喜びの声 ～

各選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・代議員会の承認の下、下記受賞が決定いたしました。受賞者の皆様のご活躍を祈念いたします。



「2023年度 学会賞 を受賞して」

李 昌一

(神奈川歯科大学 社会歯科学系
社会歯科学講座災害歯科学分野 教授)



この度は2023年度学会賞を受賞させていただき誠にありがとうございました。ご推薦いただきました本学会元理事長小澤先生、また今回選考いただきました学会賞選考委員会委員長の松浦先生を始めとする選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。思えば、活性酸素種(ROS)、活性窒素種(RNS)の研究を始め、30年以上になりますが、親が望む歯科臨床の道に行かず、学生時代から惹かれた薬理学教室の助手になり、出会ったのが酸化ストレス研究でした。この酸化ストレスの原因であるROSを測定できる方法論で最も良い方法は電子スピン共鳴(ESR)法があると知り、全くESRのつもなかったのに、幸運にもその時に神奈川歯科大学に京都大学を定年後に赴任した亡き波多野教授がESR法に造詣が深いことを知り、意気投合させていただきました。先生の多大なご尽力により、神奈川歯科大学にESR装置が導入されたことが、まさに私のESRとの出会いでした。それから、一貫してESR法を用いた研究に拘り、ROS、RNSの生体内外での足跡を求める長い研究の旅が始まりました。旅はもちろん山あり谷ありでしたが、研究をする楽しみとともに私が恵まれていたのが酸化ストレス学会の先生方との出会いでした。紙面の制限上、先達の先生方を中心に記しますが、波多野先生は言うまでもなく、私淑しております小澤先生、牧野先生、そして初期のESR実技面では河野先生、NOでは亡き吉村先生、そして in vivo ESRでは安西先生、内海先生、またESR関連の先生だけでなく、元理事長の吉川先生や長野先生、井上先生、山本先生、池田先生を始めとする幅広い研究領域の先達、同輩、後輩、若手の年代において、多数の先生方にも大変お世話になり、ご指導やたくさんの刺激を受け勉強させていただき、かけがえのない思い出の宝をいただきましたこと、謹んで感謝申し上げます。

研究につきましては、現在まで30年以上、ESR法による生物医学応用の研究に携わり、主要ROS測定法を確立した後に、当初は口腔の骨格筋である咀嚼筋、血管反応に関わるROSの役割について研究に従事しました。これらの研究成果をさらに飛躍させるために、当時最先端ESR関連酸化ストレス研究を行っていたジョンズホプキンス大学医学部Zweier教授のもとに留学し、口腔・循環系・脳の生理、病態にかかわるROSとRNS産生における炎症細胞の役割を解明する研究に携わり、in vivo ESR、ESR imaging法の最先端の現場も学びました。帰国後、さらに、ESRの生物医学応用を深化させ、ROSによる脳、口腔領域および循環・脳系疾患動物の酸化ストレス評価法を確立しました。これらの研究成果から臨床基盤研究を目指したESR法を用いた抗酸化作用を有する生体サンプル(とくに唾液)、抗酸化薬物、食品由来抗酸化物質の抗酸化能評価法を確立し、産学連携で新規検査法と抗酸化剤の開発にも従事しています。また、Down症候群の早期加齢、また病的な加齢に伴う口腔疾患の病因の解明、さらには予防法を確立することを目指した積極的な臨床研究を進め、とくに唾液を用いた臨床研究成果として、口腔だけではなく、全身の酸化ストレス疾患との関連性など、これまでに多数の臨床研究を進めさせていただいています。この度栄誉ある学会賞をいただきましたので、これらの研究成果を日本が迎える超高齢者社会に酸化ストレス制御の観点から、「口腔の健康の重要性」を本学会から社会的に発信し、啓蒙していきたいと思っておりますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



【各賞の公募について】 2024年度も各賞の公募を行います。

学会賞/学術賞: 公募中(締切 3月30日まで)
学術奨励賞: 年次学術集会演題公募と合わせて公募
是非とも多数のご応募をご検討をお願いします。

また、学会Official JournalであるJCBNに掲載された論文には下記2種の賞がありますので、是非積極的な投稿をお願い致します。(応募不要)

八木記念学術奨励賞
High Citation Award

その他、選考委員会推薦の功労賞、国際学会におけるYIAなどがあります。詳細は学会HPや事務局からのご案内をご参照ください。

◇◇◇ 支部だより ◇◇◇

東海支部

東海支部では2023年2月18日(土)に生理学研究所/九州大学大学院薬学研究院の西田基宏先生を実行委員長として第11回支部学術集会を自然科学研究機構 岡崎コンファレンスセンター(愛知県岡崎市)で開催しました。3年ぶりの対面を含むハイブリッドでの開催となり、教育講演では静岡県立大学食品栄養科学部の内田邦敏先生と名古屋大学の田中宏昌先生にご講演いただきました。また一般発表のほか対面参加ではポスター発表も行い、若手研究者も参加して討論も大いに盛り上がりしました。さらに、感染防御に留意しつつ情報交換会も実施して久しぶりの研究者同士の交流を行うことができました。2023年度の支部学術集会は次の予定で開催されます。



第12回(2023年度)日本酸化ストレス学会東海支部学術集会

会 期:2024年2月10日(土)13:00~17:00

会 場:岐阜市文化センター(対面開催のみ)

<https://gifu-culture.info/>

実行委員長:原 宏和 先生(岐阜薬科大学)

教育講演:柴田貴広先生(名古屋大学)

演題締切:2024年1月5日(金)

要旨締切:2024年1月22日(月)

事前参加締切:2024年2月2日(金)



関東支部

この度、第36回日本酸化ストレス学会関東支部学術集会が、2023年12月3日(日)に国立医薬品食品衛生研究所の所在地(川崎市川崎区)でもあります殿町国際戦略拠点「キングスカイフロント」内のLiSE 川崎生命科学・環境研究センターで開催されました。本学会には、酸化ストレスのメカニズムや人への影響について様々な方面の研究者ら、全国から88名が参加されました。主催テーマは「基礎と臨床を結ぶ酸化ストレス化学」であり、酸化ストレスに関する基礎研究と臨床研究において、基礎から臨床まで幅広い分野の研究者が集い、フリーラジカルの化学に焦点をあてることで、課題解決に向けた議論が行われる場となりました。特に関東支部会の伝統を引き継いだ若手の研究者の最新の研究成果を発表・ディスカッションする重要な活躍の場としても位置付けられるものでした。本学会は、一般演題発表(25演題)、特別講演(1演題)、教育講演(1演題)、シンポジウム(6演題)、イブニングフォーラムなど、様々な形式でのプレゼンテーションが実施されました。なかでも一般演題のフラッシュトークとポスターセッションの組み合わせの発表形式やイブニングフォーラムでの産学協同を目指した議論や情報共有は、本会で初めての試みでしたが、深い議論の場を設けることができ、非常に有意義なセッションの印象を得られました。一般演題の優秀演題賞は、最優秀演題賞1名(伊藤 紘・量子科学技術研究開発機構)、優秀演題賞6名(芳賀 一樹・芝浦工業大学大学院、丹羽 良介・同志社大学大学院、新田 友香・横浜薬科大学、西中 瑠子・京都大学、小森 美郷・京都大学、甲田 優太・筑波大学)が表彰されました。写真をご覧くださいますように会の最後まで大変に賑わいまして、盛会となりましたことを感謝申し上げます。本会を通じて日本における酸化ストレス研究が進歩し、基礎研究から臨床研究、行政への架け橋となり、社会的な貢献ができるものと確信しております。次回の支部学術集会は2024年に昭和大学 板部洋之先生が支部会会長として開催を予定しており、本年は2024年5月17日~5月19日に神奈川歯科大学 李昌一先生が全国大会会長として開催を予定しております。本学会を遂行するにあたり、ご支援を賜りました日本酸化ストレス学会に深く感謝申し上げます。

関東支部 大野彰子



◆◆◆ 関連学会 開催案内◆◆◆

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性がありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにでも随時情報を掲載予定です。

日本酸化ストレス学会東海支部 第12回学術集会

日時: 2024年2月10日(土) 13時00分~17時00分 (予定)
会場: 岐阜市文化センター

<https://gifu-culture.info/>

参加費: 無料

実行委員長: 原 宏和(岐阜薬科大学)



フリーラジカールスクール2024

日時: 2024年8月7日、8日(予定)

会場: 岐阜(長良川温泉) (予定)

主催: 日本酸化ストレス学会 若手の会

代表: 神谷哲朗(岐阜薬科大学)



The 11th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research-Asia (SFRR-Asia)

Date: October 21-23, 2024

Venue: Kuntai Hotel (Beijing Wangjing), Beijing, China

www.kuntaihotel.com

会長: Chang Chen (Institute of Biophysics, Chinese Academy of Sciences)

担当: SFRR China



31st Annual Conference of the Society for Redox Biology & Medicine

Date: November 20-23, 2024

Venue: Savannah Convention Center, Savannah, Georgia, USA

Contact: <https://sfrbm.org/>



22nd Society for Free Radical Research International Biennial Meeting

Date: June 3-6, 2025

Venue: Galway, Ireland

Contact: <https://www.sfr-europe.org/>
(hosted by SFRR Europe)



*2027年 第23回SFRRはSFRR Asiaの担当。開催地検討中。

JCBN (学会オフィシャルジャーナル) 情報 (Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)



オンラインによる投稿随時受付中!

Online Submission URL

<http://www.editorialmanager.com/jcbn/>

2022 JOURNAL IMPACT
FACTOR
2.4

View calculation

JOURNAL IMPACT FACTOR WITHOUT SELF
CITATIONS
2.2

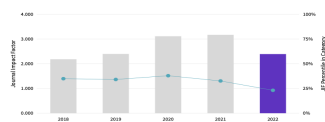
View calculation

Journal Impact Factor Trend 2022

Export

IF : 2.4

頁チャージは
会員特別割引価格を
設定しています。



※特別審査・掲載なども受付けております。(別途有料・編集事務局宛にご相談下さい。)

Editorial Secretariat for JCBN: jcbn@nacoss.com

◆◆◆ 学会報告 ◆◆◆

SFRBM 2023 & SFRR 21st Biennial Meeting

Date: November 16-19, 2023

Venue: Punta del Este Convention & Exhibition Center, Punta del Este, Uruguay

福井 浩二 (芝浦工業大学)



2023年11月15-18日にかけてウルグアイで開催されたSFRR International 21st Biennial Meetingに参加してきました。日本からは遠く、空路で30時間以上かかりました。また、首都の空港から学会開催地までも100キロ以上あり、周りに牛や馬を眺めながらようやく到着といった具合でした。プンタデルエステは「南のモナコ」と称されるリゾート地で、治安は非常によく、きれいな街で港には大型クルーザーが多数停泊していました。学会はコンベンションセンターで開催され、形式は例年通りでしたが、ここまで遠いとさすがに日本人参加者は少なく、合計で7名でした。ポスター発表では北海道大学の加藤千博さんがSFRRのYIAを、QSTの伊藤 紘先生と本学の鹿目結希さんがSFRR-AsiaのYIAをそれぞれ受賞しました。ウルグアイは国民より牛の数の方が多く、ウルグアイ式BBQ(アサード)が有名で、私たちも本場を満喫しました。(英語はあまり通じず、スマホのスペイン語への自動翻訳アプリをフル活用でした。)また、一番有名な指の彫刻を見に行ったら、日本人が珍らしいらしく、現地の子供たちから「ハポン!」と呼ばれ囲まれてしまいました。なんだか人気者になったようでうれしかったです。

次回は2年後にアイルランドで開催です。ちなみに私は帰りの飛行機が19時間遅れ、延泊という貴重な経験をしました。参加した先生方、長旅と時差ボケ、大変お疲れさまでした。(写真の一部は筑波大学松井先生から頂いたものです)



◆◆◆ 活動報告 ◆◆◆

「日本酸化ストレス学会若手の会」

神谷哲朗(岐阜薬科大学)

～日本酸化ストレス学会若手の会は2020年3月に発足しました～

「日本酸化ストレス学会若手の会」は、酸化ストレス研究に従事する若手研究者や大学院生・学部生が集い、交流・情報交換を通してお互いに成長することを目指しています。概ね45歳以下の方で日本酸化ストレス学会の会員であれば、どなたでも入会が可能です(ご興味のある方は事務局までご連絡ください: yfr.since2020@gmail.com)。

2023年11月12-13日に「フリーラジカールスクール2023」を福井県花はす温泉で開催し、皆様のご協力で盛況に終わることができました。口頭発表セッションでは、予定を大幅に超える熱い発表と質疑応答が行われ、ベテラン講師陣の先生方との楽しい交流もありました。

来年度からは、新しい体制(新会長: 神谷哲朗: 岐阜薬科大学)がスタートします。現在、「フリーラジカールスクール2024」の準備に取り組んでおり、岐阜市にある長良川温泉でオンサイトでの開催を計画しています。学生の皆様には、発表の機会や表彰も用意しています。積極的なご参加をお待ちしています! 若手の会HPで随時情報を更新していきますので、是非ご確認ください(<https://yfrsince2020.wixsite.com/my-site>)。

Free Radical School 2023

会 期: 2023年 11月 12日(日)~11月 13日(月)

会 場: 花はす温泉 そまやまおよびWeb会場(Zoom)

〒919-0214 福井県南条郡南越前町中小屋 60-1



日本酸化ストレス学会 川柳 絶賛大募集中

5・7・7のリズムに乗せて、酸化ストレスあるある、気軽に捻って見ませんか？



🌸 睦月の川柳 🌸

「若手の会 この学会は みな若手」
「ウルグアイ ちゃんと学会 参加した？」



「siで 平時の雑務 無くしたい」
「マスク取れ 初めましての対面会」
「スクールの 集合写真 記憶なし」
「決めかねる 国際学会 円安で」



(これまでの応募作品)

誰の作品か考えながら、お楽しみ下さい(〇)
優秀な作品は、次年度の年次学術集会で表彰致します。

新 シリーズ:酸化ストレスの轟き 第10回



「抗酸化フードファクター研究に魅入られて」

大澤 俊彦

(名古屋大学名誉教授 愛知学院大学・
人間総合科学大学 特任教授)

私と「酸化ストレス」との長い付き合いの最初に出会いは、1978年に名古屋大学農学部助手として赴任し、食品や生体の構成成分、特に、脂質の過酸化反応に対する「酸化ストレス」の関与に関する生物有機化学的な研究に挑戦しようとした時です。丁度この頃、幸運にもカリフォルニア大学デービス校の環境毒性学部から、客員教授として1年間滞在するチャンスが巡ってきました。酸化ストレスバイオマーカーの探索研究の合間に、カリフォルニアワインで有名な「ナパバレー」でワインの試飲を楽しみ、また、大学内の醸造所で生産された「赤ワイン」を賞味するという恩恵を受けることができました。このような素晴らしい環境で研究を楽しんでいるときに、「デザイナーフーズ」との出会があったのです。



米国国立がん研究所(NCI)が中心になってスタートした「デザイナーズフーズ計画」は、1990年代前半にサンフランシスコやニューヨークで数々のシンポジウムやフォーラムを積極的に開催し、私も多くのシンポジウムに招待されて参加するうちに日本でも開催してほしいという要望が出てきました。そこで、「国際フードファクター学会(食品因子の化学とがん予防国際会議～International Conference on Food Factors:Chemistry and Cancer Prevention)」の会長を引き受けることになりましたが、最初に依頼された時は助教授であり、資金面でも不安感を抱いた船出でした。この国際会議の開催に強力な「助っ人」として組織委員会に加わっていただいたのが、日本酸化ストレス学会名誉理事長の吉川敏一先生でした。先生のおかげで、農学分野だけでなく、医学、理学、工学など幅広い分野の研究者とともに、産業界からも多数の研究者が参加し、科学的根拠に基づいた機能性食品因子研究の重要性に大きな注目が集まり、1995年12月に浜松で無事開催することができました。これをキッカケに「日本フードファクター学会」(JSof)を立ち上げ、その後「フードファクター(Food Factor)」、特に「抗酸化フードファクター」の概念を世界的な規模に展開することができたことは大きな誇りとなりました。

当時、私の研究室は多くの大学院生を抱え、研究費の獲得に東奔西走の毎日でした。このような状況の中で、救いの神だったのが、JSTによる「大学発ベンチャー創出プログラム」の公募でした。このプログラムは大型で、定年前の私にとって貴重な研究費でしたが、採択の条件として、プログラム終了時まで、実際に「大学発ベンチャー」を立ち上げることでした。資金調達に苦労しながらも2009年に創設することができ、事業も順調に展開し現在に至っています。この会社が力を入れているのが、郵送検診に用いる「抗酸化バイオマーカー」の開発とヒト臨床試験への応用です。また、私は、現在、いくつかの財団の役員を務めており、特に研究費の申請課題の評価に携わっていますが、酸化ストレス関連のオリジナリティの高い若手の研究者の独創的な研究を期待しています。このような背景で、「日本酸化ストレス学会」の役割は、益々重要となるでしょう。70歳で理事を退任しましたが、2022年度には功労賞を授与され、再び監事として学会の運営に携わる喜びを感じております。微力ではありますが、老骨に鞭打って、さらなる学会の発展に貢献できることを願っております。



◇ SFRR International & Asia News ◇

* 関連国際学会において、若手奨励賞(YIA)が授与されました。

【SFRR International】

SFRBM 2023 & SFRRI 21st Biennial Meeting

Date: November 16-19, 2023

Venue: Punta del Este Convention & Exhibition Center, Punta del Este, Uruguay



SFRR Internationalが設けているYoung Investigator Awardには

加藤 千博(北海道大学 大学院獣医学院 放射線学教室)が選出されました。

SFRR ASIA TRAVEL AWARD Supported by T&F

- 1) 伊藤 紘(量子科学技術研究開発機構 量子生命科学研究所)
- 2) 鹿目結希(芝浦工業大学 システム理工学専攻) 以上2名



* 2023年度は下記の賞の授与は行われませんでした。

SFRR Asia Young Investigator Award

T & F Young Investigator Award

T & F Prestigious Poster Award

SFRR Japan YIA(日本酸化ストレス学会)



益々のご活躍を祈念しております。

2024年はSFRR Asia並びにSFRR Australasia & Japanの開催予定年です。

【SFRR Asia】

2年に一度の国際学会についてはP2参照。

現在の役員(2022-2024の学会まで)

President: Young-Joon Surh(Korea)

President-elect: Chang Chen(China)

Secretary-General: Osamu Handa(Japan)

Treasurer: Hidehiko Nakagawa(Japan)

Representative: Shinya Toyokuni(Japan) Noriko Noguchi(Japan)



【SFRR A+J】

SFRR Australasia and Japan Joint Biennial Meeting

The 11th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research-Australasia and Japan (SFRR A+J)

Date: 2024年(予定)

Venue: オーストラリアもしくはニュージーランド(検討中)



◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

昨年5月の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、生活スタイルも変わって来ました。マスクを外す時間も増え、国内外の往来も増えて来ました。いざこれから！という2023年のSFRRは、日本から遠く離れてのウルグアイ開催と、時間的にもコストの面からもなかなかのハードルの高さとなり、少し出鼻を挫かれた感もありますが、少数精鋭で本会からのご参加を頂きました先生方の参加記を拝見し、改めて、国際学会へ参加出来る有り難さが伝わって来ました。

折からの円安で、日本はコロナ禍以前を上回る海外からの来訪者で賑わっているようです。活気があるのは良いと思う反面、事務局のある京都はオーバーツーリズムが問題となってきておりますが、感染症で閉じ込められていた数年を思うと、気持ちは分かるのが歯痒いところでしょうか。国内外の人の往来など 当たり前に出来ると思っていたことが 当たり前ではなく、有難いことであったということに気づかされた方も少なくないのではないのでしょうか。

昨年日本を賑わせた阪神タイガースの快進撃、そして最後に掴み取った“ARE”のように(他球団ファンの方にとっては嬉しくはない？)、諦めないで頑張れば、きっと日の光は射すのかなと感じた2023年でした。今年は、SFRR Asia並びにSFRR A+Jの開催年ともなっております。たくさんの会員の皆様に参加できる事を祈念して、新年のNLをお届け致します。



SFRR Newsletter 2024年1月号

発行: 2024年1月20日

一般社団法人日本酸化ストレス学会事務局

(総務委員会: 半田 修・犬童寛子・中西郁夫)

法人事務局: 〒602-8048

京都市上京区下立売通小川東入西大路町146番地 中西印刷(株)内

Tel: 075-415-3661 Fax: 075-415-3662

内容に関するお問い合わせ: E-mail: sfrjr@koto.kpu-m.ac.jp

HP: <http://sfrjr.umin.jp/>